

特 集 献 血

身近な人が病気や事故で輸血が必要になった場合、皆さんならどうしますか？自分の血が輸血できるかどうか、できない場合には、どのような流れで血液が確保されているのか、考えてみたことはありますか？

今回のテーマは、献血と献血でわかる病気について、説明します。(日本赤十字社のホームページより抜粋)

(1) 献血の種類

献血には、成分献血、400mL 献血、200mL 献血があります。400mL 献血と 200mL 献血は、血液中の全ての成分を献血していただく方法です。一方、成分献血は、成分採血装置を使用して血漿や血小板といった特定の成分だけを採血し、体内で回復に時間のかかる赤血球は再び体内に戻す方法です。ですから成分献血は身体への負担も軽く、多くの血漿や血小板を献血していただける特徴があります。人間一人ひとりの血液は、たとえ血液型が同じでも微妙に違ってきます。このため複数の献血者からの血液をあわせて一人の患者さんに輸血するほど、副作用(発熱、発疹など)発生の可能性が高くなります。成分献血、400mL 献血は 200mL 献血に比べて献血量が多いことから、少ない献血者からの輸血を可能にし、安全性を向上させる献血方法と言えます。

(2) 献血の基準

献血ができる場合の基準は右表の通りです。なお、以下の人は献血ができない可能性があります。

- ・服薬中 妊娠中 授乳中 発熱中の方
- ・特定の病気にかかったことのある方
- ・1年以内にいれずみを入れた方
- ・1年以内にピアスの穴をあけた方
- ・1年以内に予防接種を受けた方
- ・3日以内に歯科治療(歯石除去を含む)した方
- ・輸血歴 臓器移植歴のある方
- ・海外に旅行に行った方 海外で生活した方
- ・クロイツフェルト・ヤコブ病の方、またそれと疑われる方
- ・エイズ 肝炎などのウィルス保有者、またそれと疑われる方

	成分献血		全血献血	
	血漿成分献血	血小板成分献血	200mL献血	400mL献血
1回 献血量 (体重別)	300mL～600mL	400mL以下	200mL	400mL
年 齢	18歳～69歳	18歳～54歳	16歳～69歳	18歳～69歳
体 重	男性45kg以上 女性40kg以上			男女とも 50kg以上
最高血圧	90～180mmHg			
最低血圧	50～100mmHg			
血液	血液比重1.052以上 又は 血色素量12g/dL以上 (赤血球指数が標準 域にある女性は 11.5g/dL以上)	血液比重1.052以上 又は 血色素量12g/dL 以上	血液比重1.052以上 又は 血色素量12g/dL 以上	血液比重1.053以上 又は 血色素量12.5g/dL 以上
比重等				
血小板数		15万 μ L以上 60万 μ L以下		
年間 献血回数	血小板成分献血1回を2回分に換算して血漿成分献血と合計で24回以内		男性6回以内 女性4回以内	男性3回以内 女性2回以内
年間 総献血量			200mL献血と400mL献血を合わせて 男性1,200mL以内 女性 800mL以内	

65歳以上の献血については、献血される方の健康を考え、60～64歳のあいだに献血経験がある方に限ります。

(3) 献血の場所

献血は、主に献血ルーム、献血バス、血液センターで受け付けています。献血ルームは、検査、調製、供給などの機能がなく、献血の受け入れのみを扱う施設です。主に都市部を中心に交通の便がよい場所にあり、その多くは献血中にテレビやビデオの視聴ができるなど献血される方がリラックスし、楽しめる設備を備えています。近くでは 豊田献血ルーム(豊田市若宮町 1-57-1 t-FACE A館9階(松坂屋豊田店) 0565(35)4480 受付 全血献血 10:00～13:00/14:00～17:45 成分献血 10:00～12:00/14:00～17:00 休日 毎週火曜日)があります。

(4) 献血の際に行う検査

- 1 血液型検査(ABO 式, Rh 式, HLA)
- 2 梅毒血清検査
- 3 B型肝炎ウイルス(HBs, HBc)
- 4 C型肝炎ウイルス(HCV 抗体)
- 5 HIV エイズウイルス
- 6 HTLV ヒトT細胞白血病ウイルス
- 7 ヒトパルボウイルス B19
- 8 AST, ALT
- 9 -GTP(-GP)
- 10 血清総タンパク(TP)
- 11 アルブミン(ALB)
- 12 総コレステロール(TC)
- 13 赤血球数(RBC)
- 14 白血球数(WBC)
- 15 血小板数(PLT)

(5) 献血Q & A

- ・採血針等の器具はお一人ずつの使い捨てになっておりますので、器具からエイズや肝炎等が感染することはありません。
- ・献血後の日常生活への影響は、献血量が血管の中を流れている血液量(循環血液)の15%以下であれば、問題になることはありません。血小板成分献血の場合は、体内の約10～20%の血小板を採取しますが、血小板は常に再生産され、1週間程度で元に戻ります。血漿成分献血の場合も1週間程度で元に戻ります。通常 200mL 献血の場合、赤血球は約2～3週間で回復し、400mL 献血の場合は、約3～4週間で回復すると言われています。女性は赤血球の回復が遅れることもありますので、年間の献血量が男性より少なく設定されています。
- ・献血していただいた血液の一部は、輸血の安全性を向上させるために10年間冷凍保管し、厳重に管理いたします。
- ・検査の結果、輸血に使用できなかった血液は、輸血の有効性・安全性の向上のための研究や、安全な輸血のための検査試薬製造等に有効に活用させていただくことがあります。